

“仕事と卓球の両立”がモットー 卓球を原動力に共生社会の実現を目指す

ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求しながら独自の研究を進め、高度な技術とユニークな視点で様々な医薬品を開発・提供している協和麒麟株式会社。キリングroup全体がスポーツ振興に取り組む中、協和麒麟では伝統の卓球部による障がい者交流などを長年行っています。



写真提供：卓球レポート/バタフライ

協和麒麟株式会社



体験会・講習会



ボランティア



協賛



アスリート雇用

企業情報

協和麒麟株式会社

【担当部署】コーポレートコミュニケーション部

【住所】東京都千代田区大手町1-9-2
(大手町フィナンシャルシティ グランキューブ)

【電話】03-5205-7200

【URL】<https://www.kyowakirin.co.jp/index.html>



「以前訪れた地域で大会があった際に、当時の生徒さんが応援に来てくれることがあり、それは何にも代えがたい、選手たちの励みになっています。」(佐藤監督)

パラアスリートの加入がチームや社内に良い刺激に

同社卓球部にはパラアスリートである岩淵幸洋選手が所属している。岩淵選手を迎えた理由には佐藤監督の強い想いがあったという。

「私はこれまで、多くのオリンピックやデフリンピックの選手も育ててきました。ただパラリンピアンはまだだったので、ぜひパラアスリートと一緒に戦いたいと思いました。岩淵は障がいの軽いクラス(クラス9)で、健常者と一緒に練習することも可能。そういった想いと熱意を持って彼に声をかけたところ、当社を選んでくれました。」(佐藤監督)

基本的には障がいの有無にかかわらず、チーム全員が練習や試合に帯同。その中で活躍する岩淵選手の姿にはチームメイトも触発され、良い刺激になっているとか。



岩淵選手

「監督の立場でいえば、岩淵のマインドは、選手の人間教育や人格形成、チームの技術向上につながっています。また、一般社員にとっても岩淵をはじめとするチームの活躍が、自社のエンゲージメントやブランド向上にもなりますし、岩淵の職場では、彼を応援するために休みを取って自費で試合に駆け付けることもあります。」(佐藤監督)

障がい者スポーツセンターや特別支援学校、ろう学校を回るなど、卓球を通じたパラスポーツ交流を行ってきた。現在はその活動範囲を全国に広げている。



交流の様子

イベントは監督と選手全員で参加。デモンストレーションからはじまり、選手が各テーブルについて参加者と一緒に体験したり、練習試合を行ったり。学校によってプログラムを変えることもあれば、ろう学校の場合は事前に手話を覚えて自己紹介するなど、よりよいコミュニケーションを生むために工夫をしているとのこと。

人を大事にする企業姿勢

企業とアスリートとの立ち位置について、たとえば選手が引退したあとの雇用は企業姿勢のひとつであり、ブランディングにも関係しているという。

「選手の引退後の雇用は対象アスリートのセカンドキャリアのためだけではありません。その姿勢が『人を大事にする会社である』というパブリックイメージとなり、企業ブランドになっていくのではないのでしょうか。多くの企業様に障がい者雇用という枠を超え、健常者と同様に積極的な人材登用をしていただきたいと思いますし、当社も岩淵が目指す2024年パリ大会の支援はもちろん、以降の活動も全力でサポートし続けていきます。」(佐藤監督)



佐藤監督

卓球をひとつの原動力に、共生社会の実現を目指す協和麒麟の姿勢と取り組みに、これからも目が離せない。

今後の取組について

さらなるパラスポーツの発展のために、障がい者スポーツだけではなく、一生の生涯スポーツとしての価値をアピールできるように横の連携を強めていきたい。さらに、卓球教室や体験交流などのイベントをオンラインでも行えるようにし、より活動範囲を広げていきたい。(佐藤監督)